

C-7 No1

現状問題	理想像	要因・背景
<p>ICT神話 (思い込み、排他性) システムに色々盛り込ませて して目的がズレていく。 電子黒板を導入したか 使えない。</p>	<p>明確な目的・ビジョンを 持つ</p>	<p>ICT理解不足 話し合い・コミュニケーション不足</p>
<p>導入の壁 新システムへの反発 がある。 慣例を崩さない</p>	<p>全員が理解している</p>	<p>昔のやり方に固執 経費・説得のデータ不足 他部署の業務の理解不足</p>
<p>プロセスの 不明確さ 教職員学生がシステム を使った際のサポート体制 が整っていない。 授業で learning を活用 してほしいが、使いかたが 不明</p>	<p>1課1人専門家</p>	<p>分からないから生じる丸投げ (簡単なマニュアル・Q&A不足)</p>
<p>データ シェアリング 各部署ごとに持っ ているデータの共有が できていない。 集めたデータが活用 できていない 状態になっている</p>	<p>共有体制が 整っていない</p>	<p>視野が狭くなり 意識が不足している (発信者側・受信者側)</p>

C-7 No2

ICT神話とは: 21世紀初頭に現れた考え。ICTを導入することで全ての問題が解決できる。という思い込みのこと。

ICT神話に終着線打っ!

4月からの運用を目指して

問題

ICT神話に振り回されず電子黒板を活用するには

要因

- ・電子黒板について理解していない
- ・使用経験がある教員が少ない
- ・食わず嫌い

理想

電子黒板を使いこなすことによって、教員の業務負担を軽減し、教育効果をUPする

課題

- ① 教職員が基本操作を分らない
- ② 多機能すぎて活用方法をイメージできない

解決策

- ① 職員向けレクチャー
- ② 教員向けレクチャー
×動画を撮ってDVD配布
- ③ 実際に電子黒板を利用している授業を見学
- ④ 教職員間でどのように活用するかを話し合う
- ⑤ 使用する機能の範囲を決める
(最低限のラインを決める)

これにより神話から現実に...

ICT神話からの脱脚!

スケジュール

